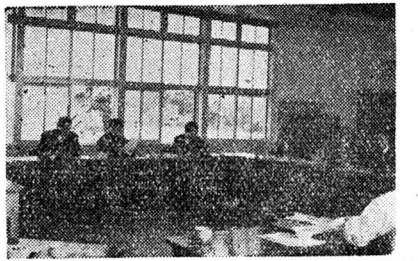


(議席順)



加積小学校増改築
片貝小学校増改築
西布施分校増改築
経田小学校増改築
昭和三十一年度以降の建築予定分

坪野分校新築
上野方小学校増改築
片貝小学校増改築
経田小学校増改築
住吉小学校増改築
道下公民館新築
昭和二十九年年度施工分
本江小学校増改築
経田小学校増改築
上中島小学校増改築
昭和三十一年度施工及び施工予定分

(二) 商工水産関係

◎観光

一、水族館
今迄、はたらくかや、水族館の季節的な現象をもつて、宣伝を行つていたが、遂に、真日本唯一の水族館を建設し、埋没林館を含む世界の三奇観をもつて、新に世に



光客で満ちた水族館、埋没林館の風景を盛り起した。当館を訪れた客は、二ヶ年で五〇万人を数えんとしている。

昭和三十一年度
大人 一五八
学生、小人 八五三人
七、八五八八

団体 九八、〇〇〇人
計 三五七、七二一人
(昭和三十一年度)
大人 三七、六八八八
学生 三七、六五〇人
小人 五〇、二〇〇人
計 一二五、五三八八

昭和二十九年五月、北海道沖大遭難事件に於て、市出漁員三十一名を喪つたので、市では逸早く合同葬を執行し、其の冥福を祈ると共に、遺族へ弔慰金を贈り、又労災保険金の交付、遺族へ生活資金の融資、死亡確認の手続等の解決に尽した。

昭和三十一年度
大人 一五八
学生、小人 八五三人
七、八五八八

昭和三十一年度
大人 一五八
学生、小人 八五三人
七、八五八八

昭和三十一年度
大人 一五八
学生、小人 八五三人
七、八五八八

昭和三十一年度
大人 一五八
学生、小人 八五三人
七、八五八八

昭和三十一年度
大人 一五八
学生、小人 八五三人
七、八五八八

育協、市連青本部、ボーイ・スカウト第二隊事務所、市芸術協会事務局など、市立図書館と比べものにならないほど活発です。

本年度も、乙二航海士及び、乙二機関士の養成に当る事になっていきます。

昭和三十一年度
大人 一五八
学生、小人 八五三人
七、八五八八

昭和三十一年度
大人 一五八
学生、小人 八五三人
七、八五八八

昭和三十一年度
大人 一五八
学生、小人 八五三人
七、八五八八

昭和三十一年度
大人 一五八
学生、小人 八五三人
七、八五八八

昭和三十一年度
大人 一五八
学生、小人 八五三人
七、八五八八

昭和三十一年度
大人 一五八
学生、小人 八五三人
七、八五八八



西紀一九五六年、昭和三十一年の十二支(えと)は丙申(ひのえさる)であり、

奉行三日市柿木騒動を処断した。

一八三六丙申 天保七 岡

一八四八戊申 嘉永元 岡

一八六〇庚申 万延元 岡

一八七二壬申 明治五 十

二月三日を以て明治六年一月一日と定められた。

新川郡を二区に分ち第四大区初代区長を寺崎宗七氏と定められた。

魚津一番小学校創設。魚津郵便局創設。新川県庁を魚津旧郡代屋敷(現在の税務署のあるところ)に置かれた。

この様に考えると本年は実に目出度い年であり、

が、諺に「猿も木から落ちる」と言われている様に、注意を怠つたり、油断をすれば、猿でも木から落ちると思わぬ失敗をやらねばならない。

今魚津に於て約二百年間に於ける申年の出来事の大要を調べて見よう。

一七五二壬申、宝暦二年、富山藩煙草に課税をした。

一七六四甲申、明和元、この頃農民が困窮して百姓一揆が増加した。

加賀藩サツマイモの種子を分ち番殖を進めた。

一七六六丙申、安永五、魚津町役場は荒町三十番地に移転した。

一七八八戊申、天明八、二朱判をやめて丁銀をつつた。

一八〇〇庚申、寛政十二、一八二五申、文化九、加賀藩虎谷河原渡等の鉱山の由來を調査した。

魚津を出船所とし泊、横山、境、石田を掛積所とした。

一八二四甲申、文政七、郡

申年の出来事

一八八四甲申 明治十七、下新川郡町立明理小学校を二十二番学区明理小学校と改称された。

一八九六丙申 明治二九、市町村の中央に里程表が建てられた。(岡町角岩崎商店) 魚津税務署創設(荒町二七番地)、魚津銀行創立。

下新川郡和合、川原町に創設された。

一九〇八戊申 明治四一、戊申詔書が喚発せられた。尋常小学校義務年限六ヶ年となる。魚津尋常小学校を金浦町に新設した。(今の村木小学校)。

一九二〇庚申 大正九、第一国勢調査が施行された。魚津町役場は荒町三十番地に移転した。

一九三二壬申 昭和七、上海事変が起つた。

一九四四甲申 昭和一九、魚津実業学校を魚津工業学校に転換せられた。

魚津町で功労者表彰並びに待遇規定が定められた。

一九五六丙申 昭和三一

一八八四甲申 明治十七、下新川郡町立明理小学校を二十二番学区明理小学校と改称された。

一八九六丙申 明治二九、市町村の中央に里程表が建てられた。(岡町角岩崎商店) 魚津税務署創設(荒町二七番地)、魚津銀行創立。

下新川郡和合、川原町に創設された。

一九〇八戊申 明治四一、戊申詔書が喚発せられた。尋常小学校義務年限六ヶ年となる。魚津尋常小学校を金浦町に新設した。(今の村木小学校)。

一九二〇庚申 大正九、第一国勢調査が施行された。魚津町役場は荒町三十番地に移転した。

一九三二壬申 昭和七、上海事変が起つた。

一九四四甲申 昭和一九、魚津実業学校を魚津工業学校に転換せられた。

魚津町で功労者表彰並びに待遇規定が定められた。

一九五六丙申 昭和三一

米作り東日本一に

上樂菊さんの稲作

九月十六日 粒数計算による収量予想調査
十月十四日 全刈審査(二反歩)の結果、東日本に見事当選、米作日本一もほとんど確定的と目されている。

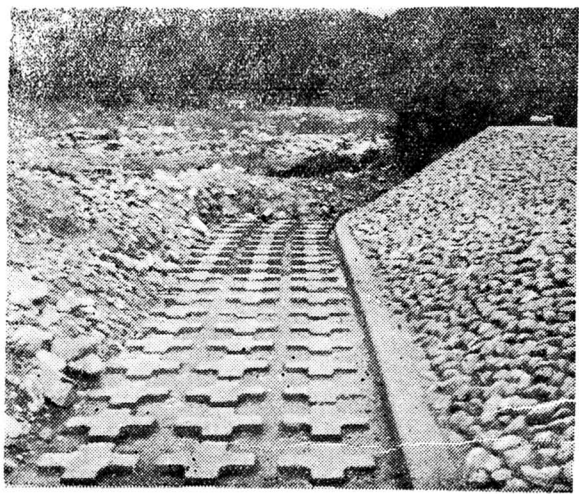
反当収量六石七斗六升四合という、昨年迄の記録を一つ三升四合も上廻つたというところについて、詳細に検討して見ますと、先づ、選定品種を見ますと、金南風という多収で、且つ倒伏に強いものを選んだこと、次に保温折衷苗代によつて早播、早熟、早繁(俗にこれを「三早栽培」と名づける)して健康育成による早稲と活着促進、早期強勢今葉の確保を期し、早刈によつて冷害による穂実不良と、千粒重の低下を避けたこと、苗代及び本田の肥料設計が適正であつたこと、早期除草と止草の繰上げが早く、早期に有効な除草の確保

と、無効分蘗期の田干しにによる無効茎の発生を抑制して、栄養成長から生殖成長への転換が完全に行われたこと、一尺二寸に五寸の枠を渡し、坪当り六十株といふ並木植の密植として、早期に有効茎を取り、併せて倒伏の防止と穂重の増加に役立たせたことも見逃せない。一面病虫害防除の面に於いて考察すると、六月十九日病虫害の総合防除として、ホリドリ乳剤加用ボルドー液の一齊防除を実施しており、七月三日紋枯病及び小粒菌核病防除の目的で、セレン石炭を反当り四斗撒粉し、八月二十二日田圃前にセレン石炭を

新工法で復旧された

虎谷の堤防

早月川支流の小早月川は、急勾配で然も非常に暴れ川でありますから、同川沿岸虎谷堤防の根柢は、従来の木枠では腐朽し、災害を蒙る虞れが有りますので、永久的なコンクリート



まいで、穂首もち病の予防をし、九月八日雨んかの防除としてマラソンを撒布してゐる。本年はよい天候に恵まれたとは言へ、以上四回に亘つて防除が行われ、稲の生育は良好である。稲の生育は良好である。稲の生育は良好である。

てN五〇三五〇匁、P二五〇〇匁、K七五〇〇匁となる。

中耕除草は、一番草五月二日、二番草六月四日、三番草六月十日、止草六月二十日、四回の四回で、何れも市(九斗三系)取回除草器で行い、止草は、手取りを加えて見ますと、苗代肥料は坪当り硫酸七〇匁、過石一〇〇匁、塩加三五匁を基肥とし、追肥として草木灰一〇〇匁を五月九日に施し、硫酸一五匁を五月十日に施用し

ある。面積は実測四〇一歩であつて、土壌の構造は一層から五層まで全部細かな砂壤土で成り立っており、大く発達した管状鉄が縦に走っており、雲状鉄等多数に存在する。地下一米迄深層の根は張っており、減水五分という素晴らしい土壌である。

去る昭和二十七年と二十八の二回に互に洪水の泥水が入り、現在の耕土五寸の下層に四年前の耕土があつて、その下と雖も恐らくは何十年前か、何百年前かは角川の混乱によつて流入された角川砂が、集積されたものと推定される珍らしい



(写真は上樂さんの田)

市政日誌

十二月十一日から十二月二十五日まで

- 十二月十二日(月) 市議会商工水産委員会及び厚生委員会開催
- 十二月十三日(火) 市議会農林委員会開催
- 十二月十四日(水) 市議会建設委員会開催
- 十二月十五日(木) 市議会教育委員会開催
- 十二月十六日(金) 市議会総務委員会及び建設委員会開催
- 十二月十七日(土) 市議会議員協議会開催
- 十二月十八日(日) 市議会議員協議会開催
- 十二月十九日(月) 市議会議員協議会開催
- 十二月二十日(火) 市議会議員協議会開催
- 十二月二十一日(水) 市議会議員協議会開催
- 十二月二十二日(木) 市議会議員協議会開催
- 十二月二十三日(金) 市議会議員協議会開催
- 十二月二十四日(土) 市議会議員協議会開催
- 十二月二十五日(日) 市議会議員協議会開催

項目	数量
九月 一 一三 冷水	四一五
九月 一 一三 冷水	四一五
九月 一 一三 冷水	四一五
九月 一 一三 冷水	四一五
九月 一 一三 冷水	四一五
九月 一 一三 冷水	四一五
九月 一 一三 冷水	四一五
九月 一 一三 冷水	四一五
九月 一 一三 冷水	四一五
九月 一 一三 冷水	四一五

市民の生活 ()は昭和29年 末の統計

電話 85世帯に1台 (7.3世帯に1台)

自動車 57世帯に1台 (5.5世帯に1台)

自転車 6人に1台 (7.2人に1台)

ラジオ 1世帯に1台 (1.1世帯に1台)

出生 1日に2.4人 (2.3人)

死亡 1日に1人 (1.1人)

結婚 1ヶ月に2.9組 (2.7組)

映画入場 1人 9.5回 (1.7年回)

水道 4世帯に1栓 (6.5世帯に1栓)

新館 1世帯に1.2部 (1.2世帯に1.2部)

電灯 1世帯に6.9灯 (1.1世帯に6.3灯)

図書館利用 1日に146人 (145人)

昭和卅年工業統計調査実施

通商産業省では本年十二月三十一日現在で、工業統計調査を実施することになりました。この調査は、全国の製造工場について、従業員数、原材料の使用額、出荷額等について詳細に調べ、製造工業の面から我が国の経済活動の実態を明らかにする最も重要な統計を作るために行われるものであります。

一、準備調査

調査員は、本調査前に調査対象を完全に把握するために担当調査区を巡回して工業調査準備簿を作成します。

二、甲調査および乙調査

調査員は準備調査に基づいて、調査票を調査対象者に配布し、調査票に記入して調査員にお渡し下さい。

三、調査の内容

1. 甲調査票の調査内容

①事業所名

②事業所所在地

③本社または本店名

④本社または本店所在地

⑤事業所開設年月

⑥兼営の有無

⑦経営組織

⑧従業員数

⑨月別常用労働者

⑩現金給与総額

⑪原材料、燃料および電力の使用額ならびに委託生産費

⑫十以上の合計額

⑬製造品、原材料および燃料の在庫額

⑭有形固定資産の増減

⑮原動機の台数および公称馬力数

⑯主要原材料名

⑰作業工程

⑱製造品の出荷額および在庫額

⑲内国消費税額

四、調査協力について

調査員は、一月二十日頃まで各事業所を訪問致します。調査票の記入は、御協力をお願い致します。

五、秘密の保護

統計法によつて秘密が保持せられております。御安心下さい。